

日本経済新聞

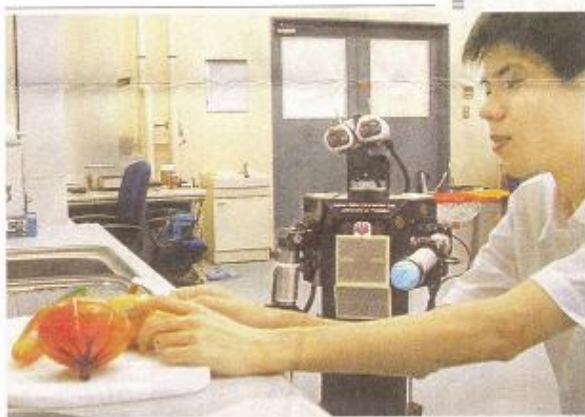
夕刊
8月20日
土曜日

発行所 日本経済新聞社
東京本社 〒100-8446 東京都千代田区千代田1-9-5
東京電子代印区 大手町1-9-5
大阪本社 〒540-8688 大阪府大阪市中央区大手前1-1-1
大阪市中央区 大手前1-1-1
名古屋支社 〒460-9398 名古屋市中区栄4-18-33
名古屋市中区 栄4-18-33
西郷支社 〒110-8566 東京都港区西郷2-16-1
福岡市博多区 博多駅前2-16-1

ロボットを台所機器や家電とネットワークでつなぎ、連携作業をさせる研究開発が相次いでいる。家事の手伝いなどができる支援ロボットが目標で、二十一世紀の生活必需品に育てる狙いだ。筑波大学の中内靖・助教と在宅設備機器などを扱う橋本総業はカメラやパソコンなどを備えた台所とロボットを連動させる実験に成功した。利用者がメニューを選ぶと

ロボットが料理のお手伝い

台所機器・家電とネット連携作業



画面にレシピを表示。ロボットはカメラを通じて料理の進み具合を把握しており、途中で食材を入れ忘れていたり、「ニンジンが冷蔵庫にあるよ」などと話しかける。また、調理器具には無線で情報を取り取る。動きさせればさらに便利に

なる。東芝はロボットを家電や住宅内のセンサーと連動させる基礎技術を開発、今秋から本格的に実験を始める。例えば「冷蔵庫をつけて」と話しかけるとロボットが言葉を理解し、ネットワーク経由でエアコンを操作する。情報通信研究機構が研究している人の動きを検知するセンサーを床下に

ロボットは生活必需品に育つか(茨城県つくば市の筑波大学)

埋め込んだ「エビキタスホーム」で使うことを想定しており、ロボットは人がどこにいるのかを把握しながら動ける。こうした研究はネットワークロボットと呼ばれる。一台のロボットにすべての機能を盛り込もうとすると大型になり情報処理も難しくなるが、別のシステムのカメラやセンサーなどと運動する形なら、ロボットは特定の作業に専念できるので実用化しやすいとみられている。

筑波大・東芝など実験・開発